

- ◆ 日 時: 2013年11月29日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 1号館301号室
◆ 主 催: 防災塾・だるま 司 会: 山田(美)さん
◆ 談義の会参加者: 会員 22名 一般 10名 計 32名 (敬称略)
(会員) 池田、伊東、荏本、菊地、高松、中島、森、山口(章)、田中(喜)、中村(茂)、山田(美)、
長沼、片山、成松、田中(晃)、樋口、佐々木、浦辺、山本(一)、小早川、河野、小林(秀)。
(一般) 田中(努)、西島、高嶋、鈴木(勝)、赤澤、柳田、村田、平野、酒井、久保。

I. 「防災塾・だるま」活動報告

1. 活動概況(荏本塾長・池田さん)

- ・養成講座が終了、防災・減災のネットワークの更なる広がり期待。伊東委員長ほか関係者に感謝。
- ・被災地から学ぶ: ①1.17 慰霊祭(つどい)(1/16-17、神戸)、②3.11 被災地を巡る(3月)を計画中。

2. 「Bo-sai 2014」(2014年3月8日(土) 山下公園イベント広場)(片山さん)

- ・横浜市青年会議所の地域防災・減災イベント「Bo-sai2014」への協力要請(J-DAG 訓練実施)があり検討を進めている。

3. 報告: 2014 カレンダー完成(田中(喜)さん)、「談義100回記念誌あゆみ」完成間近(佐藤(忠)さん)

4. 経過報告:

- ・「9周年記念アンケート」(山本・田中さん(土木学会)、片山・山田(美)さん)
- ・六角橋ケアプラザ・フォロー講座協力(2/18(火)、テーマ: トイレ対策等)(田中(喜)・片山さん)
- ・横浜市中区地区連別減災対策事業(白田さん)

II. 定例会報告・活動情報(定例会司会: 小原さん・山田(美)さん) (定例会参加者: 会員 20名 一般 1名 計21名)



2013 養成講座・終了報告(伊東さん)

- ◆第8回「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」(全6回、受講生34名)が11/28(木)をもって終了し、交流会で人的ネットワークが広がった。

(講座終了後に4名がだるま入会)

受講生のみなさん、講師陣、運営委員・関係者に感謝。

- ◆アンケート結果を次回以降に活かしたい。

- ・J-DAG体験講座、グループ討議等(特に関心高かった)
- ・意見: 震災体験談、世代間交流等への期待・提言。-

港中学校防災授業(高松さん)

- ◆防災塾・だるまが支援している港中学の平成25年度防災授業の締めくくりとして、12/19(木)に、「マップづくりの発表」(講評: 防災塾・だるま)と、「関東大震災」の映像・講演(講師: 松本洋幸氏 横浜市史資料室)」が行われる。

テーマ: 「自分の命を守りきれ!」

～港防災マップで救える命～

横浜市交通局「異常時総合訓練」(池田さん)

- ◆11/13(水)、市営地下鉄ブルーライン・上永谷車両基地で、大規模地震の発生、列車脱線・軌道破損などを想定した訓練(乗客・車いす利用者・負傷者などの避難誘導、事故の早期復旧など)が行われ、だるま会員4名も市民参加した。

緑区: みどりーむ防災・減災講座(中島さん)

- ◆11/10(日)、防災・減災講演会が実施され、自然災害から命を守るための積極的対応の大切さ、防災情報・安全対策の重要性などについて意見交換を行った。

「特別警報について」(高井元治氏 横浜气象台)
「鶴見川の防災への取り組み」

(中村修也氏 国土交通省関東地方整備局)

III. 第101回談義の会 関東大震災から90年 Part 2 (司会：山田(美)さん)

テーマ：被災者が語る関東大震災 ～ 新聞記者の体験記から ～

講師：横浜開港資料館 調査研究員 吉田 律人 氏

《関東大震災を記録した人々》

★横浜の震災直後の被災状況、社会や避難民の状況などを現在に伝達する貴重な資料映像や体験記が、当時、前川謙三氏(前川写真館)や竹内八十吉氏(横浜貿易新報社記者・神奈川新聞社の前身)などの努力で残されている。

★竹内八十吉氏は、新聞記者としての使命感から火災が拡大する中、罹災者の避難の過程の貴重な記録を体験記として残した。治安悪化、混乱と根拠のない情報(津波襲来説、朝鮮人暴動説)の拡大・拡散などの過程も物語っている。



過去にどのような災害があったかを連続的に考えることが大切。関東大震災とその4年ほど前の横浜「埋地の大火」(1919年)は、煙が避難民を襲い、一酸化炭素中毒による多数の死者を出したが、いずれも横浜の地形と関連している。

「横浜震災誌」

「横浜復興誌」



横浜市自治体史編纂事業：

★戦災などで失われた記録を掘り起こす新たな研究と試みが続けられている。市民からの資料提供も重要な役割を担っており、協力をお願いします！

(資料：池田・伊東・磯野・浦辺・田中(喜) 記録：成松)

◆ 日 時: 2013 年 12 月 20 日(金)15:00-16:30 場所: 神奈川大学 1 号館 301 号室 24 号館 310 号室

13:00~14:30

◆ 主 催: 防災塾・だるま 司 会: 池田さん・田中(喜)さん

◆ 談義の会参加者: 会員 25 名 一般 4 名 計 29 名 (敬称略)

(会員) 池田、荏本、小原、勝田、菊地、高松、田中(伸)、中島、山口(章)、田中(喜)、中村(茂)、
山田(美)、片山、成松、岡部、玉井、樋口、加藤、高江州、佐々木、山田(富)、福島、
磯野、新井田、岩楯。
(一般) 高島、建守、紅林、西島。

I. 「防災塾・だるま」活動報告

1. 活動概況 (荏本塾長・池田さん)

(1) 1 年を振り返って

地域と連携した防災講座・防災授業・J-DAG 訓練などの取組みが進展・進化し、だるまの活動への
関心が高まった 1 年だった。会員数も 104 名(11 月末現在)となった。新年を迎えるにあたって、
・活動の核となる取組みをそれぞれ着実・円滑に実施できる体制の構築に努めるとともに、
・ホームページや定例会・談義の会などを通じた情報発信をさらに充実していきたい。

(2) 神奈川大学・横浜市危機管理監・だるま塾長の三者会談

・12/13(金)、神奈川大学で、三者会談が実現し、「市民による地域の防災・減災への取組み」について
意見交換した。防災塾・だるまの取組みへの関心も実感した。

(3) 被災地から学ぶ

- ①□ 神戸から学ぶ「1.17 慰霊のつどい」(1/16-17、参加申込み: 池田さん(既に 10 名が参加予定))
- ②□ 3.11 被災地を巡る(3 月) 計画中 (佐々木さん)

2. 経過報告

(1) 9 周年記念アンケート (片山さん・山田(美)さん)

(3) 六角橋ケアプラザ・フォロー講座協力 (2/18(火)、テーマ: トイレ対策等) (田中(喜)・片山さん)

II. 定例会報告・活動情報 (定例会司会: 山田(美)さん) (参加者: 会員 20 名 一般 1 名 計 21 名)

発災直後の行動ゲーム「J-DAG」(片山さん)

- ◆ 12/10(火)朝日新聞神奈川版が J-DAG を紹介:
「大震災では最初の 1 時間が肝心。その時どう動くかを無線機とカードで疑似体験しながら学ぶ」
(全資料がだるまホームページに掲載された)
- ◆ 横浜市青年会議所イベント「Bo-sai2014」(3 月 8 日(土) 山下公園)で実施予定。

文科省「地域防災対策支援研究プロジェクト」(中島さん)

- ◆ 防災科学技術等を活用し、地域の特性やニーズを踏まえた効果的な防災・減災対策で社会全体の防災力を高める「地域防災対策支援研究プロジェクト」が H25 年度に開始。(地域報告会(予定): 3 月
F 後 小田原: 生命の星・地球博物館)

港中学校防災授業・学校保健委員会(高松さん)

- ◆ 「自分の命を守りきれ! 港防災マップで救える命」をテーマに、12/19(木)、全校生徒・だるま・中区防災担当等が参加して「防災マップ」発表が行われた。生徒達は、マップ作りを通じて地域の危険と状況を知り、命を守る大切さを話し合った。今後もだるまの人材・経験を生かして支援する。
- ◆ 併せて、横浜市ふるさと歴史財団・松本洋幸氏の「関東大震災」映像と講演、生徒による防災クイズ、最後に池田さん・高松さんの防災講話が行われた。

県西土木事務所見学会(山田(富)・池田さん)

- ◆ 12/5(木)、湖尻水門・箱根大涌谷(地すべりを防ぐ砂防工事)・新アクセスルートの見学会に参加した。

III. 第102回談義の会 気象 Part 1 (司会：池田さん・田中(喜)さん)

テーマ：地震情報・津波警報のしくみ

講師：横浜気象台 技術専門官 森原 滋彦 氏

《気象庁が発表する地震情報》

- 震度速報：発生から90秒 震源速報：発生から約3分
- 関東地方の震度観測点：神奈川県内 106地点

《津波警報について》

- 津波警報・注意報の予報区分
- 津波情報とは、津波予報とは（若干の海面変動・・・20cm以下）
 - ・ゆさゆさと長時間続くゆれは要注意 ゆれが小さいのに大津波。



《未知の地震・津波》
いつどこで発生する
かわからない！

- ・まず身の安全確保！
- ・津波警報・注意報に
率先して逃げる！
もっと高い処へ！
- ・警報解除までは帰ら
ない！

地震情報・津波
警報等のしくみ
と内容・予報区
分などの正確な
理解が大切。



《緊急地震速報（警報）》

- P波・S波の伝達速度の差を活用
- 最大震度予測5弱以上の場合に出される
- 緊急地震速報には誤差や限界も：
 - ・震源に近い場所
 - ・複数の地震の同時発生
 - ・遠い地震、大きすぎる地震（M8超）、
 - ・深い地震（100km以深） など。

懇親忘年会（企画・進行：高松・山田(美)・田中(喜)さん）

- ◇ 談義の会終了後、神大生協で懇親忘年会を開催、
ネットワークで結ばれた だるま会員・地域や
企業・行政で防災・減災に取り組む仲間 41名が
参加して、防災・減災まちづくりを語り合った。



(資料準備：池田・伊東・菊地・浦辺・田中(喜)・加藤・佐藤(忠)・山田(美)・早川さん 記録：成松)

◆日 時: 2014 年 1 月 24 日(金) 15:00-16:30 場 所: 神奈川大学 16 号館 視聴覚室 B

◆主 催: 防災塾・だるま 司 会: 伊東さん

◆談義の会参加者: 会員 24 名 一般 7 名 計 31 名 (敬称略)

(会員) 池田、伊東、小原、菊地、小菅、高松、森、山口(昭)、田中(喜)、中村(茂)、山田(美)、片山、
成松、佐々木、鈴木、石井(邦)、後藤(浩)、福島、磯野、新井田、紅林、藤崎、込宮、早川。
(一般) 西島、前田、菅原、小松、尾俣、佐藤、伊藤。



司会の伊東さん

I. 「防災塾・だるま」活動報告

1. 活動概況 (池田さん)

(1) 地域の取組みを支援し、防災・減災のノウハウを地域に伝える活動

・大井町「チームあしがら」J-DAG 訓練

1/26(日) チームあしがら: 田中(伸)・山田(富)さん他 協力: 片山・田中(喜)さん他

・緑区鴨居中学「避難所運営ゲーム HUG」訓練

2/1(土) 協力: 協力: まちづくりネットワーク緑: 防災塾・だるま 各会員

・六角橋ケアプラザ「フォロー講座: トイレ対策等」

2/18(火) 協力: 田中(喜)・片山さん他

・神奈川県建築士会(女性委員会・防災委員会)建築士の日一斉活動「避難所運営ゲーム HUG」

6 月(予定) 協力: 白田・中村(俊)さん他

※宮城県建築士会女性部会からも参加予定(実際に経験した避難所生活についての報告も依頼中)

(2) だるま会員の地域での活動紹介「地域でこんな防災活動をしています」

・2/21(金)談義の会で発表、相互理解を深める。(配布資料: 報告フォーム 提出: 加藤さんまで)

2. 経過報告

(1)9 周年記念アンケート(片山・山田(美)さん)

(2)「3. 11 被災地を巡る」(4 月の実施予定 佐々木さんの企画・共同開催)

II. 定例会報告・活動情報 (定例会司会: 伊東さん) (参加者: 会員 20 名 一般 0 名 計 20 名)

神戸より学ぶ「1.17 神戸のつどい」参加(池田さん)

◆だるまの活動の原点である阪神淡路大震災から 19 年。今年も「1.17 神戸のつどい(慰霊祭)」に参加した。(だるま会員 9 名 計 12 名)

◆現地で松山先生(元神戸市職員、だるま実践講座講師)、今石さん(芦屋市役所、だるま会員)他と「震災を忘れない!」をテーマに交流会を実施。来年は震災 20 周年を迎える。

かながわ・よこはま防災ギャザリング 2014(森さん)

◆1/18(土)、横浜市民防災センター及び沢渡中央公園で開催、多数の参加を得た。だるま会員の協力に感謝。

発災直後の行動ゲーム「J-DAG」(片山さん)

◆J-DAG の解説とツール(試作版)をだるま HP に掲載した。(ダウンロード可・無料) 1/7(火)にだるま勉強会実施。実践例(映像付)も作成中。

◆横浜市青年会議所「Bo-sai2014」(3/8(土) 山下公園)でだるまが支援して J-DAG 訓練(12:30 から 2 回 各 90 分)と展示を実施する。
(要申込み 詳細: 横浜青年会議所 HP 参照)

防災番組「地震! その時あなたは」(山田(美)さん)

◆だるま会員山田(美)さんがパーソナリティーを務め、地域の防災・減災の取組みを応援する防災番組「地震! その時あなたは」(湘南ケーブルネットワーク&コミュニティーFM ナパサ)が、朝日新聞で「草の根の防災番組発信 200 回」として紹介された。(1/21(火)第 2 神奈川版)

III. 第 103 回談義の会 (司会：伊東さん)

テーマ： 気象 Part 2 「風水害から命を守る特別警報」

講師： 伊藤 徹 氏 (横浜気象台 防災管理官)



会場風景：運用開始後間もない特別警報、気象に関わる危険・災害から
どのようにして命を守るか、活発な質疑応答が行われた。

《特別警報とは》 平成 25 年 8 月 30 日運用開始

◇ 気象情報の体系：注意報、警報、特別警報の 3 段階

◇ 特別警報・・・地震・津波・暴風・高潮・大雨

★ 命に関わる非常事態が迫っていることを知らせる。

・ 経験したことのないような異常な状況：

「数十年の一度の台風上陸」

「数十年に一度の大雨」

★ 避難などの的確な対応につなげる。

－ 最新の情報に注意！

－ 状況が悪くなる前に避難を！

「これまでは大丈夫と油断は禁物！」

(東日本大震災・平成 23 台風 12 号等の経験・教訓)



講師：伊藤 徹 氏

＊ ＊災害に備える＊ ＊

～日頃から～

★災害をイメージする

★防災情報を理解する

～いざとなったら～

★ひとりひとりが

ただちに

状況に合った判断と

最善の行動を！

《身を守る行動》

◆最新の情報に注意：

急激な気象変化 異常な状況の発生

・ 発達した積乱雲に伴う災害

・・・雷、竜巻、局地的大雨など

・・・空の様子から前兆を感じる

(急に暗くなる 雷光 冷たい風 ひょう)

・ 竜巻による災害

・・・頑丈な建物の中へ避難

窓や壁から離れる

・ 急な強い雨による危険

・・・河川の氾濫 土砂崩れ・土石流

・・・すぐに水辺から離れる

浸水した場所に注意する

(資料：池田・伊東・磯野・浦辺・田中(喜) 記録：成松)

◆日 時: 2014 年 2 月 21 日(金) 18:00-17:30 場 所: 神奈川大学 24 号館 310 会議室

◆主 催: 防災塾・だるま 司 会: 加藤さん

◆談義の会参加者: 会員 24 名 一般 0 名 計 24 名 (敬称略)

(会員) 池田、小原、田中(伸)、中島、森、山口(昭)、山口(章)、田中(喜)、中村(茂)、山田(美)、
成松、田中(晃)、渡邊(善)、玉井、加藤、佐々木、山田(富)、鈴木、石井(邦)、後藤(浩)、
磯野、小林、込宮、西川。

I. 「防災塾・だるま」活動報告

1. 活動概況

- (1) **次回の談義の会(第105回)**は3.11をテーマに3月11日(火)に実施する。多数の参加を期待。池田さん
18:00~19:30 会場: 神奈川大学 16号館 視聴覚室B
テーマ: 「3.11 から 3 年、被災地復旧の現状と課題～経済学者の視点から～」
講 師: 佐藤 孝治 氏 (神奈川大学経済学部教授: 防災塾・だるま顧問)
- (2) 役員会報告: 総会準備状況、「防災塾・だるま談義の会 100 回のあゆみ」作成、他。 佐藤(忠)さん
- (3) 2014 年実践講座: 田中(晃)さん(緑区) リーダーで準備開始を了承。 池田さん
- (4) 被災地を巡る: 東日本(4 月)の企画は見送りとする。今後ほかの案を検討予定。 佐々木さん

II. 定例会報告(司会: 森さん)(参加者: 会員 24 名 一般 0 名 計 24 名)

神戸より学ぶ「1.17 神戸のつどい」参加報告(進行: 中島さん)

* 1 月 16-17 日 参加者: だるま会員 9 名 一般 3 名 計 12 名

* 活動内容 ① 被災地の記憶を巡る(東公園-防災公園-港の遺構)

② 神戸市役所・防災展示室(河嶋さんの解説)

③ 松山さん(元神戸市職員)・今石さん(芦屋市役所)との懇親会

④ □1.17 慰霊式典

⑤ 人と防災未来センター

⑥ □その他 - 仁川百合野地すべり資料館: 地すべり跡(西宮市 市民 34 名死亡)に建てられた資料館

- 兵庫県心のケアセンター(神戸市): トラウマや PTSD 等のこころのケアの研究・研修



定例会司会の森さん

- ◆来年は 20 周年、震災の面影が殆ど見られなくなった。復旧・復興に 20 年かかったということなのか。
震災後に生まれた・移った住民が 6 割強、追悼式参加者高齢化、震災記憶の風化、時間の経過を強く感じた。
- ◆震災の遺構、地震の巨大なエネルギー、現場保存の訴求力の強さは震災を知らない世代へのメッセージ

松山先生から:

「災害は必ずいつか発生します。どんなに完全な素晴らしい対策を作っても、それを生かすのは人の手です。英知と使命感と勇気・人類愛そして想定外のことにでも対応できる知識と起点を持つ人が必要です。マニュアルが無くて動ける、そんな人材の育成がこれからは課題だと思います。」

- ◆地すべり資料館・・・急傾斜地の多い横浜や他地域でも参考になる。
こころのケアセンター・・・災害の時の心のケアは重要な課題。
みなとのもり公園の非常トイレ設備等・・・減災施設として参考になる。

参加者:
現地で学んだ事、感じた事を
地域の人に伝えていきたい。

緊急テーマ「大雪対策について」(意見交換)

- ◆会員レポート: 建屋崩壊、カーポート被害など。(相模原)
- ◆想定外の事態に即応できる構えを取れていたか、大雪への備え(食料や水など)、行政の対応など、検証!

III. 第104回談義の会（司会：加藤さん）

話題：会員活動報告「私は地域でこんな活動をしています」

* 報告書の提出者：約20名 配布資料：定年後の地域デビュー（2月2日 朝日新聞）



談義の会司会の
加藤さん

《まちづくり・ひとづくり～地域の防災力向上のために》 まだまだ課題は多い・・・

- ・地域のリーダーとして（自治会、防災・減災組織、地域防災拠点・マンション防災組織）
- ・地域のリーダーや若い世代の育成のために（防災訓練、啓蒙活動 防災ギャザリング 等々）

地域の防災・減災講座（六角橋ケアプラザ講座は今後も継続予定）、

HUG・J-DAG 訓練、地域防災スクール in かながわ 等々。

- ・地域の小・中学校の防災・減災授業も支援。

《被災地支援 災害ボランティア活動》

- ・神奈川県から被災地へ 東日本大震災の復旧・復興業務に現地で携わる
だるま会員も。派遣職員として専門性と実務経験を生かす。



《防災塾・だるまの活動》**ホームページには活動報告、防災・減災情報や今後の活動予定が掲載されている！**

- ・活動概要：定例会 談義の会 実践講座 被災地訪問と交流 防災に関する提言 等々。
 - ・多彩な顔ぶれ：セーフティーリーダー、防災マイスター、アマチュア無線、赤十字活動など幅広い。
- *** 震災対策技術展(2/7 パシフィコ横浜)では荏本塾長が活動紹介「市民と共に七転び八起き」***

（資料：池田・伊東・磯野・浦辺・田中（喜） 記録：成松）

第 105 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成 26 年 3 月

◆日 時: 2014 年 3 月 11 日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 16 号館 視聴覚室 B

◆主 催: 防災塾・だるま 司 会: 山田(美)さん

◆談義の会参加者: 会員 23 名 一般 1 名 計 24 名 (敬称略)

(会員) 池田、荏本、菊地、窪田、中島、森、山口(昭)、田中(喜)、山田(美)、片山、田中(晃)、
玉井、佐々木、鈴木、石井(榮)、石井(邦)、後藤(浩)、磯野、岩楯、西島、早川、紅林、
西川 (一般) 濱野

司会の山田(美)さん



I. 「防災塾・だるま」活動報告など

1. 運営関係

- ・会員の移動: 西川さん(東京都台東区)が入会され会員総数 109 名
- ・年会費未納者については、規約に則り対処する
- ・J-DAG 資料の公開: 完成版 V-1.0 を HP 上に公開、ダウンロードすれば活用可能(無償)
- ・だるま総会(4/25 開催) 関連: 新年度事業計画(2014 年度)について会員からの提案に協力依頼
- ・2014 年度「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」 準備会: リーダー田中(晃)さん
前年度の委員を主体に協力会員を募る(テーマ案: 災害要支援者対策など)

2. 活動概況など

- 地域の取組みを支援し、防災減災のノウハウを地域に伝える活動
- ・緑区防災減災講座 協力「まちづくりネットワーク緑」: 池田・佐々木・田中(晃)・中島さん他
3/8(土) 「巨大地震に備えて 東日本大震災から学ぶこと」 講師: 佐藤孝治先生
- ・神奈川区沢渡地区の防災訓練 報告: 紅林さん
3/5(水) リヤカーを出して準備したが、高齢者の参加がなく訓練が消化不良。
- ・大井町の家具転倒防止対策支援活動 報告: 山田(富)さん
4/27(日) 大井町ふれあい広場 実施: 防災まちづくりの会(足柄上郡大井町)

II. 定例会報告: 司会: 山田(美)さん(参加者: 会員 21 名 一般 0 名 計 21 名)

(1) 活動報告・意見交換

横浜青年会議所『Bo-sai2014』参加(3/8)

- ◆7 テントを使って J-DAG 2 回実施、会議所会員を主体にゲーム参加者約 20+20 名、行政参加者もあり熱心な体験ができた。(リーダー・片山さん)。
- ◆だるま活動紹介のパネル展示及びチラシ配布を行った、テントが会場の端で立地が悪く来訪者が少なかった。(リーダー・加藤さん)
- ◆だるま会員: 参加者 9 名+当日来賓者 7 名

中区地区連別減災対策事業・港中学の経過報告

- ◆ 地区連別事業: 12 地区連の内、森さん地区は「まち歩き」の実績があり、話が円滑に進行。
佐藤さん地区、一時避難所までをよく調べて
pg. 9 いる。 地区別のギャップが大きい。
- ◆港中学: 卒業式を控え多用で現在打合せ中断。

群馬大・片田先生の講演会…釜石の奇跡(3/9)

- ◆「近年の大規模災害に学ぶ 地域防災のあり方」
- ・先人の教えがあっても、生活感から被災体験の無い親世代は逃げない、だから子供達も逃げない。
- ・人情に厚い気質から親族を助けようとして被災。
- ・自分は絶対逃げる、親も逃げてくれと言う絶対的な信頼感の構築が防災教育(津波でんでんこ)。
- ◆ 防災教育が「恐怖の教育」になっている問題。
- ◆ 予約制で定員 500 名、ほぼ満席(黒岩知事挨拶)
(報告: 中島・早川さん)

防災科研「リスク社会のイノベーション 2014」(3/7)

- ◆今年度行政と民間との情報共有化をテーマとして取組み、「神奈川県地震と火山災害」もその一環。
- ・・・・セミナー情報(P-3) 第 6 項参照
- ◆神奈川県では「e-防災マップ」が活用できる。

III. 第 105 回談義の会 (司会：山田 (美) さん)

テーマ：「3. 11 から 3 年 被災地復旧の現状と課題」 ～経済学者の視点から～

講師：佐藤 孝治氏 (神奈川大学経済学部教授、防災塾・だるま顧問)



★東日本大震災発生直後の 4 月、いち早く現地調査に入られて以来 21 回の調査を重ねられた佐藤先生からの数々の課題と提言

教科書に出てこない伊勢湾台風 (1959 年)、超大型台風の災害を風化させてはならない。



《三陸沿岸の経験から学ぶこと》

- ① 人口減少・高齢化の中での災害対策
- ② 公助・共助・自助、NPO 活動の検証
- ③ 高齢者の健康・寒冷対策・孤独対策
- ④ 過信は禁物 (判断を遅らせた事例が多い)
- ⑤ 津波遡上の検証 (河川・道路など)
- ⑥ ガレキ処理対策の重要性
- ⑦ 記憶の伝承と防災教育
- ⑧ 原発立地と事故対策の点検・検証
- ⑨ 女性のための防災対策
- ⑩ 防災無線以外の連絡手段 (臨時災害放送局)

《首都直下地震による被害想定と対策》

日本人には、考えたくないことは考えない性癖がある

- ◇ 避難所生活者数＝約 720 万人・・・首都圏に復興住宅を建てる場所は殆んど無い (集団疎開の必要性が生じる)
- ◇ 自治体職員にも犠牲が生じ、行政機能や社会サービスが果たせない甚大なりリスクが起こる
- ◇ 東京湾コンビナートにおける大規模災害の発生・・・東京湾海上火災の懸念
- ◇ 東京湾内の火力発電所の大規模な被災・・・電力供給が長期間途絶える
- ◇ 大規模被災による死者とその処遇

★佐藤先生の講演第 2 弾を開催します (時間不足で内容的にかなり省略部分があったため)。

日時：4 月 17 日 (木) 14 : 00～17 : 00 場所：別途連絡します。

記録：中島光明

以上